

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第2回 産業・経済部会
日時	平成22年10月22日（金） 15時00分から17時00分
会場	長野市役所第二庁舎10階会議室17
出席者	作業部会員 （敬称略）
	関係課員

I 会議次第

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 部会長・副部会長の選出
- 4 部会長・副部会長あいさつ
- 5 会 議
 - (1) 第四次長野市総合計画 前期基本計画の現況と課題について
 - (2) 産業・経済分野の質疑・意見交換
 - (3) 市民フォーラム21 産業・経済部会 ワークショップについて
- 6 ワークショップ
テーマ 「5-2 活力ある農林業の推進と中山間地域の活性化」
- 7 その他
 - (1) 今後の予定について
- 8 閉 会

II 会議の概要（主な決定事項、質疑及び意見交換等）

- 3 部会長・副部会長の選出
部会長は中島嘉一郎部会員、副部会長は中村久美子部会員に決定

- 5 会議
 - (2) 産業・経済分野の質疑及び意見交換等について

【要旨】

- (1) 松代で20年にわたり専業農家として大規模な農業を営んでいる方の「儲かる農業は目指していないが、当たり前の生活がしたい」という言葉が印象に残っている。農業は非常に厳しいが、当たり前の生活ができるようになれば農業をやる人も増えてくる。農業と言うと、二言目には「儲からない」「生活の糧にできない」という言葉が出てくるというのが現実だが、そのあたりを行政と地域が一緒になって解決していかねばと強く感じている。
- (2) 会社に勤めている人と同じぐらいか、それ以上の収入があれば農業をやる人はいる。それには、生産した農産物がそれなりに評価されて売れなければならない。自分で値段が決められる宅配などで販売している人もおり、そういうところでは若い人も育っている。子どもが継いでくれれば良いが、高齢により仕事ができなくなる中で、労働力の確保は大きな問題。子どもには農業をさせたくないという人もいる。

(3) 都市圏の大学を出て、長野に帰るか首都圏に留まるかという選択肢の中で、「魅力的なまちであるか」、「経済的にやっつけられるか」ということを考える。長野は、自然が豊かで魅力的なまちではあるが、経済的にやっつけられるかという不安があり、首都圏での就職を考える人が多い。長野で、夢を持ち、自信を持って暮らしていけるようなまちづくりが必要。

(4) 大きな企業の撤退は長野市にとって大きな痛手。若い人にとって、働く場所がないということが魅力が無いということにつながる。女性の場合、このような不況下では特に、子育てをしながら働ける場所が少ないというのもネックになる。さりとて、農業には就かないというのが現実。農家のうちの母親が子どもに「農業では食べられないから別の仕事に就いてもいい」と口にする。若い頃からそう言われ慣れていけば、そのような意識が根付いてしまう。

(5) 子どもには苦勞させたくないという親心もある。長野市内の人口には影響が出ていなくても、中山間地域に住む人は減っている。中山間地域に年寄りだけが残されてしまうという現状をどうにか変えていかなければならない。

(6) 高齢化が進行する中、現役世代は既に別の仕事に就いているため、若い世代に期待するしかないというのが実情。子どもの頃に自然に触れ、農作業などに携わる機会を設けるなど、農業の良さを子ども達に伝えていくことも必要。

耕作放棄地の復元は重要な課題。復元した農地で蕎麦が作れば、もっと長野県産の蕎麦がPRできる。

(7) 荒廃農地がイノシシなど野生鳥獣の棲家になっているという実態もあるため、耕作放棄地の復元は、その対策にもつながる。

(8) 長野市の専業農家は長野市内に何軒あるのか。

⇒約1,800軒ある。

◇林業はどうか。

⇒林業の専業者はいない。

◇市域の約6割が森林ということで、とても緑が豊かな都市だが、専業農家が1,800軒とお聞きし少し意外に感じている。周りでも目に見えて田や畑が減っている。たまに農業をしたいという若い人がいても、それだけでは生活できないという現実がある。これだけ豊富な資源があるので、何とかして、若い人が意欲を持って取り組めるような環境を整えることが必要だと感じている。

(9) 長野市の産業を見たとき「長野らしさ」というものがない。観光も、製造業も、農業も何でもあるが、何を中心にしていくのかということが言えない難しいまち。市域も広くなり、長野市と言った場合に、中心市街地もあり中山間地域もある中で、ワークショップを進めるにあたって、ある程度、議論の的を絞っていく必要があると感じている。

農業については、長野では生計を立てられるような仕組みになっていない。一定の規模がないと経営は成り立たないが、一定の規模でやる場合には従事者がいない。個人では限界があるため、法人化や組織化が必要。ただ、農業に全く可能性が無い訳ではない。「すだち」などの農産物を用いて商品開発を行い何億円も売り上げている地域もある。可能性を絞って特徴的な農業を展開していくことが必要。

(3) 市民フォーラム 21 産業・経済部会 ワークショップについて

資料のとおり了承され、実施することとした。 ※ワークショップ終了後に説明

6 ワークショップ

テーマ 政策5-2 活力ある農林業の推進と中山間地域の活性化 ※別紙のとおり

儲かる農業

農業で生活するためには、農業のビジネス化が必要。

儲かる農業であれば、中山間地域の活性化にも結びつく。

農業公社の有効活用が必要。(グループ化の推進など)

大学など外部の知識の導入と活用が必要。

長野市の規模では、農業だけではなく商業・工業・観光・林業が適当にあることがいい。

農業と商業・観光とのマッチングが必要。

最初から加工目的の品種を導入する。

原料生産から製品までをまとめた地域で展開できないか。(農業の石油化学コンビナート)

自然だけでは商品は(商売)は出来ない。特色を出すことが必要。

長野の特産品は限られている。新たな特産品の開発が必要。

農産物に付加価値を付けることが必要。(加工商品など)

特色ある長野の農産物を創出することが必要。

長野の新しい食文化の創出が必要。(そば粉のガレットとシールドなど)

地域毎に特色のある製品づくりや事業展開により地域が活性化する。

地元産の農産物を食べる(選択する)地域の意識づくりが必要。

学校給食に地産地消を導入するべき。

直売所が多いところが良い。

海外も含め、販売ルートの見直しが必要。

農産物を生産したら販売戦略も必要。そのためには専門家が重要。

農産物の規格を緩やかにすることが必要。(ハネ出しの販売等)

農産物が豊富でおいしいところが良い。

秀でた農産物のPRが不足している。

後継者不足

安心・安全な野菜(づくり)を守っている人がいてくれるところが良い。

農業後継者が少ない。

高齢化で農業がいつまで続くのか心配。

農地維持の負担が大きい。

週休2日制農業や農業の近代化などにより、若い人が集まる農業の推進が必要。

農地の集約が必要。

中山間地域

過疎・高齢化が進行している。

中山間地域の後継者不足が著しく、若い人がいない。

ハンターの高齢化が進んでいる。

中山間地域で「年金プラス農業」者を増やす。

高齢者でも作れる作物生産の推進が必要。

年齢的にも基盤的にも、中山間地域での耕作が困難となっている。

中山間地域でグループ責任制を導入し、農業支援(金)や技術アドバイス等ができないか。

まずは、野生鳥獣対策により中山間地域における安全・安心な地域づくりが必要。

住民の総参加で野生鳥獣対策に取り組むことが必要。

荒れた土地を開拓してほしい。

農家民泊の受入れは農家の生きがいにつながる。

小・中学生の農業体験・農家民泊には、教育委員会の協力が必要。

山間地と中山間地を分けて施策を行ったらどうか。

森林所有者

森林所有者の意識が希薄になっている。

社会が求める森林の役割と所有者の意識に違いがある。

森林所有が負担になっている。

森林所有者の特定ができない。

森林ボランティア

里山の整備をボランティアでやりたい。

森林整備のボランティア窓口が分からなかった。

ボランティアだけでは森林整備はできない。

森林体験の参加者数が増加しているのは大切なこと。

「善光寺の森」は身近で森林にふれる良い機会となるので積極的にPRしたい。

温暖化に伴い、高地が多い長野の利点をいかしたい。

その他

このままでは野山が荒れてしまう。

木材の利用が進まない。

木材の地産地消のルート作りが必要。